

(別紙様式 4)

職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名	設置認可年月日	校 長 名	所 在 地		
日本リハビリテーション専門学校	平成9年12月25日	木村 哲彦	〒171-0033東京都豊島区高田3-6-18 (電話) 03-5954-6511		
設 置 者 名	設立認可年月日	代 表 者 名	所 在 地		
学校法人 敬心学園	昭和61年4月11日	理事長 小林 光俊	〒169-0075東京都新宿区高田馬場1-32-15 (電話) 03-3200-9071		
目 的	理学療法士として即戦力を身につけるための専門教育を実施する。心豊かな人間性を持った医療者育成を目指し、知識や技術のみでなく総合的臨床能力を高めることに重点を置く。				
課 程 名	学 科 名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
医療技術専門課程	理学療法学科 (昼間部)	4年(昼)	137単位	—	平成17年文部科学省告示第169号・170号
教育課程	講義	演習	実験	実習	実技
	80単位	11単位	45単位	45単位	45単位
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
160人	154人	10人	25人	35人	
学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日	成績評価	■成績表(有・無) ■成績評価の基準・方法について S、A、B、C、Dの5段階評価。筆記試験、実技試験、平常の学習状況及び欠席状況を総合して評価する。		
長期休み	■学年始め：4月3日 ■夏 季：8月7日～9月15日 ■冬 季：12月25日～1月4日 ■春 季：3月5日～4月2日 ■学 年 末：3月4日	卒業・進級条件	卒業要件：本校に4年以上在籍し、全科目を履修し認定を受けること。 履修方法：履修単位制。授業科目を履修して試験に合格すれば科目認定を与えられる。		
生徒指導	■クラス担任制(有・無) ■長期欠席者への指導等の対応 出席状況を常に把握し一定以上の欠席日数の学生に対し担任が指導を行っている。	課外活動	■課外活動の種類 学業に支障がない範囲でボランティア活動に参加することを方針としている。 ■サークル活動(有・無)		
主な就職先	■主な就職先、業界 病院、診療所、介護老人保健施設他 ■就職率 100%	主な資格・検定	・理学療法士国家試験受験資格 ・上級救命講習		
中途退学の現状	■中途退学者 8名 ■中退率 5.2% 平成24年4月1日在学者155名(平成24年4月入学者を含む) 平成25年3月31日在学者147名(平成25年3卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更(不適性)、成績不振、健康上の理由等 ■中退防止のための取組 クラス担任制を設け、学生全員と個別面談を行い、状況の把握に努めている。一定の成績に満たない学生に対しては、自己分析の上、学習方法の改善等の特別指導を行っている。				
ホームページ	URL: http://nitiriha.com/				

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

生徒の就職先となる医療機関（病院・医院等）及び介護老人施設や福祉施設（身体障害者施設・介護老人福祉施設等）における理学療法士等の人材の専門性に関する動向を踏まえながら、最新の實務に関する知識、技術、技能などを十分把握・分析したうえで、当該職業実践専門課程の理学療法学科昼間部（4年制）の教育を実施するにふさわしい授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を行う。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成25年11月29日現在

名 前	所 属
木村 哲彦	日本リハビリテーション専門学校 校長
高田 治実	帝京科学大学 東京理学療法学科教授
武市 裕貴	介護老人保健施設小金井あみず苑 副施設長
松岡 良幸	介護老人保健施設ふれあいの里 リハビリテーション課長
古川 広明	新百合ヶ丘総合病院 リハビリテーション科科長代行
山下 高介	陽和病院 社会療法部作業療法室作業療法士
栗原 実里	総合東京病院 診療技術部リハビリテーション科作業療法士
二瓶 隆一	日本リハビリテーション専門学校 名誉校長
工藤 征四郎	日本リハビリテーション専門学校 副校長・総括事務長
畠山 敦	日本リハビリテーション専門学校 教務部長兼理学療法学科総括学科長
近野 智子	日本リハビリテーション専門学校 副教務部長兼作業療法学科昼間部学科長
篠田 良平	日本リハビリテーション専門学校 理学療法学科昼間部学科長
鈴木 雅男	日本リハビリテーション専門学校 理学療法学科夜間部学科長
深瀬 勝久	日本リハビリテーション専門学校 作業療法学科夜間部学科長

(開催日時)

第1回 平成25年11月29日 16:00~17:00

第2回 平成26年2月 (未定)

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

本校では臨床的教育重視の観点から企業との連携による実習・演習等に関して、最新の実践的かつ専門的職業教育を行うことを基本方針として実践している。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
臨床見学実習	指導者のもとで見学を通じて、病院、施設内での理学療法士の役割と責任を包括的に把握し、理学療法の対象となる患者、障がい者の持つ諸問題を理解する。 また、将来理学療法士を目指す学生として医療人としてのふさわしい態度を培う。これまで履修した基礎知識が、臨床でどのような意味を持つか認識する。特に、すでに学習した検査、測定技術（MMT、ROM・T、感覚検査等）は、機会があれば指導者のもとで実践する。	いずみ記念病院、河井病院、厚生荘病院、多摩丘陵病院、東大和病院他 平成24年度31施設、平成25年度31施設
臨床実習Ⅰ	基本的な疾患の理学療法を学んだところで、比較的症状の明瞭な患者について、指導者のもとで、情報収集、検査、測定を実施し、それをも	いずみ記念病院、おおしま喜多見駅前医院、松戸市立病院、新松戸中央総合病院、東大和病院

	とに障害構造の理解を深め、問題点の抽出、目標設定、治療プログラムの立案ができるようにする。 また、医療人として相応しい態度、行動がとれるようにする。	他 平成 24 年度 38 施設、平成 25 年度 30 施設
臨床実習Ⅱ	指導者の下で、複数例の患者を担当し、その評価、実際の治療、治療経過の記録、リスク管理など理学療法臨床の実際を体験する。最終実習時には、上記の内容がほぼ独立して行えるようにする。また、医療人として相応しい態度、行動がとれるようにする。	古河赤十字病院、介護老人保健施設葵の園・富士見、厚生荘病院、国分寺病院、東京都リハビリテーション病院他 平成 24 年度 76 施設、平成 25 年度 56 施設

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

日本リハビリテーション専門学校教職員研修規程に基づき、専修学校の専門課程の職業実践専門課程の認定の趣旨に鑑み、時代の流れに沿った最新の医療・福祉・保健等に関する社会のニーズを反映した教育活動を実践していくため、これまで以上に、研究レベル及び実務レベルの医療や福祉又は保健等の学会や研修会に教職員が積極的に参加して、資質の充実向上を図っていくことを教職員研修等基本方針とする。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成 25 年 11 月 29 日現在

名 前	所 属
高田 治実	帝京科学大学 東京理学療法学科教授
武市 裕貴	介護老人保健施設小金井あんず苑 副施設長
松岡 良幸	介護老人保健施設ふれあいの里 リハビリテーション課長
古川 広明	新百合ヶ丘総合病院 リハビリテーション科科長代行
山下 高介	陽和病院 社会療法部作業療法室作業療法士
栗原 実里	総合東京病院 診療技術部リハビリテーション科作業療法士

(学校関係者評価結果の公表方法)

URL: <http://nitiriha.com/app-def/S-102/topics/wp-content/uploads/2013/12/議事録.pdf>

5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL: <http://nitiriha.com/evaluation>

授業科目等の概要

(医療技術専門課程理学療法学科昼間部) 平成25年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			哲学	医療従事者として必要とする論理的な思考力と表現力を鍛える。現代の生物化学と医療技術が提起した問題の中から5つを取り出して考察してみる。キーワードは「自己決定権」と「生命操作」とする。	1前	30	2	○		
○			心理学	現代心理学の基礎を学ぶ。心理学の概要を理解し、さらに人間の発達段階における特徴、心理学理論による人間理解と心理学的援助技法の基礎的知識を習得する。	2前	30	2	○		
○			教育学	最近の教育事情を把握するとともに、教育学の基礎的知識を学ぶ。また、授業を通して、自分自身の学びを再点検すること、人間・社会等を理解する為の視野を広げることがをねらいとする。	1前	30	2	○		
○			社会学	社会的人間について、家族集団を中心に社会集団を通して考察する。さらに、人権、コミュニケーション論をグループワークを中心に行い、共生生活について考えていく。	2前	30	2	○		
○			情報科学	コンピュータの操作に関して、新しい機種・未知のソフトに対してもなんとか対処できるような、本質的知識を体得することを目指す。コンピュータを用いて文書作成及びデータ処理を行う。	1前	30	2	○	○	
○			自然科学Ⅰ	専門科目を理解するために必要な物理学の知識を習得する。現実の場面で物理学的な考え方が適用できるようになること。力学を重点的に行う他、熱、波動、電磁気等の話題にもふれる。	1前	30	2	○		
○			自然科学Ⅱ	理学療法士として必要な生物学に則した化学を学習し、生化学的な考え方を身につける。また、生理学ほか専門基礎科目の助けとなるように進める。	3前	30	2	○		
○			統計学	PTの日常業務において扱う各種データのパソコンによる処理技法を習得する。データの集計や統計処理のための概念、理論、手法を理解する。	3前	30	2	△	○	
○			保健体育	健康についての理解を深め、健康に影響を与える因子が我々のライフスタイルとどのように関連するか学習する。健康に影響を与える因子とライフスタイルを学ぶ。	1前	15	1	○		
○			体育実技	理学療法士として必要な動作と身体のしくみを自分自身の身体で感じ、臨床現場で役立つ実践的な運動効果の知識と技能を習得する。	1前	45	1			○

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			英語 I	英語を「生きた言葉」として捉えるようにすると同時に、医療の専門用語についても身につけていく。病院を中心とした様々な場面設定の中での英語を理解した上で、ペアワークを取り入れながら進めていく。	1前	30	2	○	△	
○			医学英語	臨床上、特に実用的な英語表現・英単語を優先的に伝えていく。また英語による資料検索方法やコミュニケーションスキルの向上も合わせて図っていく。	3前	30	2	○		
○			解剖学 I	人体の構造を理解する。骨格、関節の構造を理解するとともに解剖学用語を習得する。	1前	30	1	○		
○			解剖学 II	人体の構造を理解する。筋肉の種類と位置を理解し用語を習得する。	1前	30	1	○		
○			解剖学実習	人体構造の理解。神経系及び感覚器系の構造を理解し、用語を習得する。	1後	45	1	○		
○			機能解剖学	人体構造の理解。循環器系及び内臓の構造を理解し、用語を習得する。	1後	30	1	○		
○			機能解剖学実習	人体の構造と機能を理解する。内蔵諸器官の構造機能と局所解剖を習得する。	1後	45	1	△		○
○			生理学 I	人体の生理機能についての基本的な知識の習得を目的とする。人体の構造、機能について学ぶ。	1前	30	1	○		
○			生理学 II	人体の基本構造について理解し基本的な知識を習得する。人体の構造と知識について学ぶ。	1前	30	1	○		
○			生理学 III	日常にある身体に様々な影響を与える要因についての知識、また運動との関連性を習得する。日常で触れているものを取り上げ、体に対する刺激とその反応について講義を行う。	1後	30	1	○		
○			生理学実習	人体の生理機能についての理解を深めるための実習を行う。血圧と心拍数、心電図、呼吸数測定、血液計測等。	1後	45	1			○
○			運動生理学	運動に対する様々な体の反応を理解し、学習した知識を活用できるようになることを目標とする。	2後	30	1	○		

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			運動学Ⅰ	運動学の基礎知識と体幹の構造と運動のメカニズムを習得する。	1前	30	1	○		
○			運動学Ⅱ	上肢・下肢の構造と運動のメカニズムを習得する。	1後	30	1	○		
○			運動学実習	運動学の知識を基に人間の正常な姿勢や歩行に必要な要素、メカニズムについて習得する。	2前	45	1	△		○
○			人間発達学	身体的・精神的・社会的存在としての「人」を発達の見点から学ぶ。理学療法を展開する上で、その対象である人の理解を深める。	1後	30	1	○		△
○			生涯発達概論	発達し続ける人の理解を深め、PT視点から学ぶ。人間発達学に続いて運動発達を理解する。	2前	15	1	○		
○			病理学概論	国家試験に出題される範囲内で病理学の基本的な知識を理解する。	2後	30	2	○		
○			臨床心理学	臨床心理学の基本的な考え方に加えて、代表的な理論やアセスメント技法、及び各種心理療法などについて、心理テストの体験や講義、演習などを通して体験的に学ぶ。	2後	30	1	○		△
○			臨床医学概論	医学全体の幅広さを知る目的で、毎回その道の第一人者の解説的講義を聞き、医療人として医学に対する真摯な認識の育成を目標とする。	2前	30	2	○		
○			内科学・老年学Ⅰ	主要な内科疾患（循環器・呼吸器・消化器）について病態・検査・診断・治療を解説する。	2前	30	1	○		
○			内科学・老年学Ⅱ	主要な内科疾患（肝胆膵・血液・内分泌等）について病態・検査・診断・治療を解説する。	2後	30	1	○		
○			整形外科Ⅰ	整形外科に関する正確な知識の習得とそれらの正しい運用ができるPTの育成。	2前	30	1	○		
○			整形外科Ⅱ	整形外科に関する正確な知識の習得とそれらの正しい運用ができるPTの育成。	2後	30	1	○		

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			神経内科学 (含む脳外科学) I	神経内科学総論 (神経系の基礎・神経診察・神経系の検査)を理解する。	2前	30	1	○		
○			神経内科学 (含む脳外科学) II	神経内科学総論 (脳血管障害・変性疾患他)を理解する。	2前	30	1	○		
○			精神医学	理学療法における精神医学の役割について理解し、病態を学ぶ。	3前	30	1	○		
○			小児科学	周産期から小児期にわたる健全育成と特有疾患について理解し対応できることを目標とする。	2前	30	1	○		
○			社会福祉概論	支援を要する児童、障害者、高齢者の福祉サービス、安心して生活できる社会保障制度を学ぶ。	3後	15	1	○		
○			リハビリテーション医学概論	リハビリテーション医学基礎知識とリハビリテーション発展の歴史・現状及び課題並びにリハビリテーション主要四分野の概要等について学習を深める。	1前	30	2	○		
○			公衆衛生	家族、地域社会の背景を見極めることによって予防医学的、社会医学的視野を広げ、実践的活動に役立つ知識を習得し将来の医療組織チームの一員となることを目標とする。	3後	15	1	○		
○			医療接遇	理学療法士を目指す上で、医療陣としての資質を獲得する。グループディスカッション、マナー講座、リハビリテーション病院見学を行う。	1前	15	1	△	○	
○			理学療法概論 I	リハビリテーションにおけるPTの役割と医療者としての心構えを学習する。医療、リハビリテーション、理学療法の基礎的事項を学習する。	1前	30	2	○		
○			理学療法概論 II	理想とする理学療法士像とその行動目標を共通認識として形成する。臨床現場の見学を通じて、理学療法士としての行動を意識する。	1後	30	2	△		○
○			病態運動学	疾患別の運動携帯を理解し、運動学、機能解剖学の知識を統合する。動作分析の概念・基本、疾患別の動作の特徴、動作分析演習を行う。	3前	30	2	○	△	
○			理学療法研究法	研究の意義・方法を知るためにデータ解析学を学ぶ。更に研究論文が読めるようになること、論文の書き方を理解できるようにすることを目標とする。	3後	15	1	○	△	

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			P B L セミナー I	1つのシナリオに対し、グループで検討・学習・まとめを行い知識の共有をはかる。	1後	30	1		○	
○			検査測定法概論	理学療法で必要となる理学療法評価の概念を理解し、学習する。概念と基礎的な検査法を学習する。	1前	15	1	○		△
○			検査測定法 I	関節の基本的運動方向を理解し、各関節可動域の参考値を知り、関節可動域テスト（ROMテスト）の測定方法を熟知する。	1後	30	1	○		△
○			検査測定法 II	整形外科疾患検査に必要な解剖・疾患を理解し適切に実施できるようになる。	1後	30	1	○		△
○			検査測定法 III	各検査に関する理論をふまえ、正確な検査・結果の解釈が実施できるようになる。伝導路や反応が生じるメカニズムの確認を行ったうえで、評価方法や結果の解釈について講義・実技を通して学習する。	1後	30	1	○		△
○			検査測定法 IV	中枢神経疾患の病態把握に必要な検査の理論と技術を習得する。	2前	30	1	○		△
○			検査測定法 V	高次脳機能検査に必要な疾患を理解し適切に実施できるようになる。	2前	30	1	○		△
○			検査測定法実習	徒手筋力検査法を実施し、筋力を正確に評価できるようになる。筋の走行や働きを確認した上で、実技を通して検査方法や判断基準を学習する。	1後	45	1			○
○			検査測定セミナー I	検査測定の統合と解釈を統括的にまとめ、系統的に実技の学習・確認を行う。	3前	30	1	○		○
○			検査測定セミナー II	検査測定の統合と解釈を統括的にまとめ、系統的に実技の学習・確認を行う。	3前	30	1	○		○
○			運動動作解析学	これまでに学んだ運動、動作に関する知識について、実際の動作分析を重ね、動作の観察力の理解を深める。	3後	15	1	△		○
○			P B L セミナー II	1つのシナリオに対し、グループで検討・学習・まとめを行い知識の共有をはかる。	2後	30	1		○	

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技
○			総合セミナー	臨床の学習・実習時に必要な、他部門の知識、新しい領域の知識を学習する。(レントゲン写真・MRI・CTの見方、臨床検査の情報の見方、障害者スポーツ、福祉施設の現状、自閉症のリハビリテーションなど)	3後	15	1	○		
○			理学療法臨床セミナーⅠ	臨床実習Ⅰで得た成果を発表し、次の学習目標の指針を明確にする。	3後	15	1		○	
○			運動療法学Ⅰ	運動療法の目的や定義を理解し、理学療法の基本となる運動療法について学習する。運動療法の基礎となる解剖生理、運動などから訓練方法について学習する。	1前	30	1	○		
○			運動療法学Ⅱ	運動療法の目的や定義を理解し、理学療法の基本となる運動療法について学習する。運動療法の基本技術となる関節可動域運動や筋力増強運動などを実習を通じて学習する。	1後	30	1	△		○
○			物理療法学	物理エネルギーの特性と、それに呼応した人体の反応から物理療法の理論と技術を学ぶ。各種療法の効果、手技、適応、リスク管理、機器の操作を習得する。	2前	30	1	○		△
○			物理療法学実習	物理エネルギーの特性と、それに呼応した人体の反応から物理療法の理論と技術を学ぶ。各種療法の学習と、実験より科学的検証・考察の基礎を学ぶ。	2後	45	1			○
○			義肢装具学Ⅰ	基礎疾患を理解した上で、切断と義肢の基礎知識を学習する。治療場面の多様化に対応できるように応用する能力をつける。義足、義手について学ぶ。	3前	30	1	○		
○			義肢装具学Ⅱ	基礎疾患を理解した上で、切断と義肢の基礎知識を学習する。治療場面の多様化に対応できるように応用する能力をつける。下肢装具、靴型装具、体幹装具、上肢装具について学ぶ。	3前	30	1	○		
○			日常生活活動学Ⅰ	日常生活活動（ADL）の基礎を学び、評価の仕方は車いすの介助技術を身につける。	2前	30	1	○		△
○			日常生活活動学Ⅱ	各疾患に応じたADL指導、介助法を身につける。移動補助具、基本動作、セルフケアを学習し、各疾患に対応できる知識技術を習得する。	2後	30	1	○		△
○			日常生活活動学Ⅲ	代表的疾患別の生活とADL指導について学ぶ。各疾患の生活活動を疑似体験を通して理解を深める。	3前	30	1	○		△
○			疾患別理学療法Ⅰ-A	整形外科疾患の代表疾患（骨折、脊椎疾患・腰痛症他）の原因、障害像、整形外科的な考え方、評価内容、治療内容を提示し、学習する。	2後	30	1	○	△	

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			疾患別理学療法Ⅰ－B	整形外科疾患の代表疾患（関節リウマチ、神経損傷、変形性関節症他）の原因、障害像、整形外科的な考え方、評価内容、治療内容を提示し、学習する。	2後	30	1	○	△	
○			疾患別理学療法Ⅱ－A	脳血管障害における障害の特徴を理解し、評価・治療の基礎を学習する。	2後	30	1	○		△
○			疾患別理学療法Ⅱ－B	高齢者の身体的・心理的特徴をとらえる。リスク管理を学ぶ。	2後	30	1	○	△	
○			疾患別理学療法Ⅲ－A	疾患の特徴を理解したうえで神経筋疾患の理学療法について学習し、評価・治療プログラム立案を実施できるようになる。筋萎縮性側索硬化症、脊髄小脳変性症、パーキンソン病の理学療法などについて学ぶ。	3前	30	1	○		
○			疾患別理学療法Ⅲ－B	疾患の特徴を理解したうえで神経筋疾患の理学療法について学習し、評価・治療プログラム立案を実施できるようになる。多発性硬化症、ギラン・バレー症候群、筋ジストロフィーの理学療法などについて学ぶ。	3前	30	1	○		
○			疾患別理学療法Ⅳ－A	呼吸器疾患の病態を把握し、評価、運動療法、日常生活動作まで含めて学習する。呼吸不全の病態把握、呼吸器疾患の理学療法、評価など実技を通して習得していく。	3前	30	1	△		○
○			疾患別理学療法Ⅳ－B	循環代謝系疾患の病態を把握し、生活習慣病としての予防的理学療法、心疾患や糖尿病の理学療法について学習する。心不全、糖尿病の病態を中心に、各々の理学療法の進め方、評価、処方について学習する。	3後	30	1	○		
○			疾患別理学療法Ⅴ－A	定型児の発達を踏まえ、肢体不自由を生じる小児期の代表疾患について、その原因、症状、予後、障害に適切な評価方法と、その理学療法を説明でき、個別性のある対象児の発達段階、ライフステージに合わせた理学療法を検討し実施することができる。	3前	30	1	○		
○			疾患別理学療法Ⅴ－B	疾患の特性を理解したうえで脊髄損傷の理学療法を学習し、適切な評価・治療・ADL指導を選択できる能力を身につける。	2後	30	1	○		△
○			理学療法技術論Ⅰ－A	理学療法評価や運動療法を実施するために、身体各部の位置を名称を含めて触診できるようにする。	1後	30	1	△		○

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			理学療法技術論Ⅰ－Ｂ	各骨格筋の解剖や作用（運動）について再復習し、骨格筋を中心とした軟部組織の触診法を習得する。	2前	30	1	△		○
○			理学療法技術論Ⅱ	関節系に関する治療手技について、基本的構造や関節機能以上など基礎学習と評価、手技の習得を学ぶ。	2後	30	1	△		○
○			理学療法技術論Ⅲ－Ａ	結合組織の理解を深め、軟部組織・筋膜・神経に対する評価・治療の基礎を把握する。	2後	30	1	△		○
○			理学療法技術論Ⅲ－Ｂ	徒手操作を通じて、人体の構造および症状を理解する。	2後	30	1	△		○
○			理学療法技術論Ⅳ－Ａ	臨床セミナーの一環として、臨床的に使われるPNFのアプローチについて実技を中心に学習する。	2後	30	1	△		○
○			理学療法技術論Ⅳ－Ｂ	脳卒中、片麻痺の急性期から維持期までの全過程の評価・治療実技・指導を習得する。	3前	30	1	△		○
○			スポーツ臨床治療学	スポーツ障害の基本的概念と治療法について学習する。	3前	15	1	○		△
○			P B L セミナーⅢ	模擬患者に対し、グループで検査・評価を行い、個別にまとめ・発表を行う。	3前	15	1		○	
○			理学療法臨床セミナーⅡ	臨床実習Ⅱで得た成果を発表し、次の学習目標の指針を明確にする。	4後	30	2		○	
○			地域理学療法学	地域理学療法的位置づけについて広い視野から理解し、役割について学習する。地域・在宅を基盤に生活している障害者・高齢者に対する支援方法を学習する。	3前	30	2	○		
○			生活環境論	障害者、高齢者を取り囲む様々な生活環境を理解し、QOL向上のための生活環境整備の知識・基支援技術を習得する。	3前	30	2	○		
○			臨床見学実習	病院、施設の運営方針、理学療法科の位置づけと役割を知り、リハビリテーションの中で理学療法の役割を理解する。理学療法の対象となる患者の持つ諸問題を理解し問題解決の為に理学療法士として可能なことを概念的に認識する。	2前	45	1			○

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技
○			臨床実習Ⅰ	医療人としてふさわしい態度を培う。学校で習得した理論及び技術に加え、臨床場面での検査・測定を実践する。評価で得られた情報を基に障害構造の理解を深め、問題点の把握、目標の設定、治療プログラムの立案等ができるようになる。	3 後	360	8			○
○			臨床実習Ⅱ－ A	医療人としてふさわしい態度を培う。学校で習得した理論及び技術をもとに、臨床場面での評価・治療を独立または、実習指導者の下で実践する。リハビリテーションスタッフの一員としての立場チームワークについて学ぶ。	4 前	36	8			○
○			臨床実習Ⅱ－ B	医療人としてふさわしい態度を培う。学校で習得した理論及び技術をもとに、臨床場面での評価・治療を独立または、実習指導者の下で実践する。リハビリテーションスタッフの一員としての立場チームワークについて学ぶ。	4 後	360	8			○
合計					95科目	3,840単位時間(137単位)				